

## 十和田市事務事業評価シート

### 【事務事業の概要】

整理番号	1	実施計画番号	85	
事務事業名	消防団活動の基盤整備		事業開始年度	
担当課名	総務課		事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	消防組織法・十和田市消防団条例	関連事務事業		
背景や経緯等	老朽化している消防団車両及び積載用ポンプを計画的に更新する。また、山林火災等に備えジャケット式消火水のう及び夜間の停電時での消火活動のための発電機をそれぞれ整備する。			
事務事業の目的	火災及び災害発生時に地域の住民の生命と財産を守る。			
実施状況	平成24年度は、小型動力ポンプ積載車1台及びジャケット式消火水のう12基、屯所用発電機7台を整備した。平成25年度は、小型動力ポンプ1台、同積載車2台、屯所用発電機17台を整備した。平成26年度は、小型動力ポンプ付積載車2台及びジャケット式消火水のう43基を整備する。			

### 【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	60	60	60
	人件費(千円)	2,160	2,160	2,160
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

### 【事業費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
事業費合計(千円)		8,743	19,852	23,454
うち一般財源		1,970	5,022	105
うち国県支出金		1,173	1,430	1,358
うち地方債		5,600	13,400	0
うちその他				21,991

### 【指標】

活動指標	活動指標名①		小型動力ポンプ及び同積載車の更新				
	計算式等		単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
	小型動力ポンプ及び同積載車		台	1	3	4	
	活動指標名②		ジャケット式消火水のう、発電機の整備				
	計算式等		単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
ジャケット式消火水のう、発電機		基・台	水のう 12 発電機 7	発電機 17	水のう43		
成果指標	成果指標名①		小型動力ポンプ及び同積載車の更新				
	計算式等		単位	24年度	25年度	26年度	
	小型動力ポンプ及び同積載車		台	目標値	1	3	4
			実績値	1	3		
			達成度(%)	100%	100%		
	成果指標名②		ジャケット式消火水のう、発電機の整備				
	計算式等		単位	24年度	25年度	26年度	
	ジャケット式消火水のう、発電機		基・台	目標値	18.0	17.0	43.0
			実績値	19	17.0		
達成度(%)			106%	100%			

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	1
計画No	85

## 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 <b>0 / 4</b> 消防団再編成計画を作成し、年次毎に統合実施計画を定め、部(屯所、車両)の設置基準を決め、整備を図っている。	
	② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 <b>0 / 6</b> 消防団再編成計画に基づき、順次屯所の統合を遂行している。	
	④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2			
	⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 <b>0 / 6</b> 消防団再編成計画に基づき、統合した屯所の1方の車両は廃止し、残った屯所は新たに車両を更新することにより、消防力を高め、地域住民の生命と財産を守っている。	
	⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 <b>0 / 4</b> 消防団再編成、消防団活動の環境整備及び消防団員の処遇改善等について正副団長と協議し、今後の方向性を確認して進めているので受益の偏りはない。	
	⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
<b>現在の適性</b>					<b>20 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>0 / 20</b>

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **現状のまま継続**

<b>方向性の理由</b> 地域住民の生命、身体及び財産を火災から保護するとともに、水・火災又は地震等の災害を防除し、及びこれらの災害による被害を軽減するため、その基盤整備を図る。
<b>今後の具体的な取組方策と狙う効果</b> 20年以上経過した消防車両が26台あり、消防力を維持・強化するため、計画的な整備、更新に努める。また、さまざまな災害や大規模災害においても活動ができるよう基盤整備に努める。